

シリーズ 39 上 潟

開拓の歴史を秘める里

■今月の「おじゃまします」——地域情報ネットワークは、閑静ななかにも、先人の大きな開田の歴史を持つ地区——潟上地区におじゃましてみました。

「その昔、この地区に鏡潟といわれる沼があつて、この南側（上手）に位置していたことから潟上の地名がついたと小さいころ年寄りから聞いたことがあります、その沼がどんなだったかを知る人はいませんがね。今では地盤の悪さがそれを裏付けているようです。また、東側の和納に至るまでの間も湿地帯であつたといえますから、この地区は比較



潟上地区の入口（東側）にひっそりと建つ潟上墾田碑、

的高台だったんでしようね」と話してくれるのは、この一月から久しぶりに再登板となった藤田忠平区長（56歳）さんです。人口76人、世帯14戸の規模で、小じんまりとしていますが、東口にひっそりと建つ墾田碑でわかるように先人の大きな開田の歴史が残る地区です。

この碑は三部正文翁の撰書により大字潟上が建立したものです。要約してみると、——潟上の地は抜田と称して、面積にして五町歩が池沼であつた。明治32年に地蔵裏より小舟で土を運ぶ作業が始まり、やがて地域ぐるみの大きな力になって、明治39年に完成した。その結果、良田となり土壤は稲をつくるにふさわしい地になった。不毛を拓開し、地に沃（そそ）ぎて田熟す。昔は蒲莞（ほかん）長ぜしが、今は嘉穀（かこく）を収（みのら）す——という主旨が刻まれています。一度、ジツクリとごらんになって、拓田にかけた往事の人々の情熱を感じていただきたいと思います。

「このような歴史的背景もあつて、墾田碑は潟上の大きな誇りであり心の支えにもなっているんですよ。昔は4月27日をお祭りとして建立を記念してきましたが、今では「水かけ普請」と一緒に行い、古老から話を聞くことにしています。なにせ、世代交替が進んでいきますから、後世に顕彰していくことは大事なことですからね」と大字の財産であり、岩室村の文化であるにとらえます。地域活動については、「人が少ないもんで

すから、会の維持が大変なんです。だからあまり無理しないで、なりゆきにまかせているんです。この地区には社会教育にかかわった方もいますので、折にふれ相談しながら盛り立てるよう心しているんです」と地区民の主体性を強調する区長さんですが、自身も民謡の地方（じかた）として趣味活動を続け



潟上区長 藤田忠平さん (56歳)

潟上地区ミニデータ (人口と世帯)

人口	男	女	世帯
76人	34人	42人	14世帯



ているとあつて、経験を通した言葉には重みを感じられます。このほか、墾田碑と道路を隔てて建っている潟上地蔵尊の世話を中心とする親と子どもの会、お年寄りたちの親睦会、など少しずつ活動の裾野は広まってきているようです。「全体が家庭であり、一人一人が家族みたいなもんですよ」と区長さんがいうように、ほのぼのとする雰囲気が深い、緑いっぱい的大字潟上地区でした。

道路工事に伴う 交通規制にご協力を

ただいま村道岩室樋曾線の岩室地内において、流雪溝送水管理設工事のため、七月七日までの間、車両通行止（バスを除く）となっておりますのでご協力をお願いします。



新規学卒者求人受理 説明会のご案内

巻公共職業安定所では、平成4年3月新規学校卒業者を対象とした求人受理について、下記により説明会が開催されます。説明会開催日時：6月6日(木)午前9時30分から分水町文化センター午後1時30分から吉田町産業会館6月7日(金)午前9時30分から巻町公民館 午後1時30分から燕商工会議所 ※各会場とも時間は90分程度で予定 ※当日は、求人票の用紙及び資料を配布します。なお説明会について詳しくは、巻公共職業安定所(☎72-3155)までどうぞ。